

自己評価および外部評価結果(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつも見える場所に理念を掲示し、ミーティング等で話し合い、具体的なケアにつなげていけるようにしている。	企業理念の中に経営理念と介護理念があり、具体的でわかりやすく、事務室等目につき易い場所に掲示している。その理念を毎月の職員会議等で共有し、介護サービス支援を行動に移して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加したり、散歩や買物に出掛け、あいさつを交わしたりとふれあう機会をつくるようにしている。	町内会に加入し公民館祭りなど積極的に参加している。毎日、散歩や買い物に行き、地域の方から、声をかけられたり、入居者からも挨拶をして会話を楽しみ地域との交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な行事や会合に関わり、認知症ケア啓発に努めている。実習生の受入も積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の検討事項などを報告しあい、現在取り組んでいる内容等も報告し、意見をもらうようにしている。	町内会長、公民館長、民生委員、家族、地域包括支援センター等を参加メンバーとして3か月に1回開催している。参加者より助言を受けながらサービスの向上に活かしている。	2か月に1度の運営推進会議の開催を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員、地域包括センターとも連絡を取り、協力関係を築く努力はしている。	連携を保つことができるように市町村担当者と電話や書面にて情報交換をしている。必要に応じて直接出向き相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の安全のため、玄関施錠はやむを得ず、身体拘束に関する勉強会も実施し、職員の認識向上を図っている。	玄関の施錠は幹線道路がすぐ側にあり、危険防止のため、家族へ説明と同意のもとに施錠している。身体拘束の勉強会は年に2~3回行い、新人職員や実習生にはマニュアルにて指導や教育が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やスタッフ会議等で、虐待防止法に関する理解を深めるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族の中には、この制度を理解されている方もありますが、職員一人一人が理解はしていない。必要に応じて対応できるようにはしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会や個別の相談にもその都度応じて、一方的にならないように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	情報交換ノートを作成し、何でも書いていただいたり、言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。	面会簿を利用者毎に設置しており、その中に家族との情報交換ノートを作成している。家族の要望や意見など職員間で共有し、ケアカンファレンスで検討し、サービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	職員は職員会議で意見を出し合い、支援に繋げている。また、管理者が意見や要望、相談事を聞いている。日頃から職員同士の連携もよく取れており何でも言える環境が整っている。毎月、職員は代表者へ意見や提案を行う仕組みがあり活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も忙しい中現場に来て、ご利用者と過ごしたり、職員の悩みも聞いてくれたりや向上心を持って働けるよう努力してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては、マンツーマンの体制をとり、ケアの技術面やご利用者との関わり方について指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所との交流を持つことにより、サービスの質の向上につなげていけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の求めていることや不安を理解しようと工夫をしている。職員が受け入れてもらえる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、どのように対応ができるか、事前に話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いを確認し、相談を繰り返すなかで、信頼関係をきずきながら、必要なサービスにつなげていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の不安、喜びなど知ることに努め、お互いが協働しながら、和やかな生活ができるよう声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添い、ご家族と同じ思いで支援していくことを伝えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の中には、ご友人が訪ねて来られる方があり、継続的に交流ができるよう働きかけをしている。	家族だけでなく知人が面会に来てくれる事がある。面会者にはお茶でもてなし、居室や共用スペースでゆっくりしていただけるよう配慮している。馴染みの店など家族とも出かけることができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶・食事と一緒にし、その中で会話を持つようにしたり、役割活動を通じて、ご利用者同士の関係が良くなるように働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方にも、面会に行かせていただいたりしているも、何度もとはいかず、ある期間が過ぎれば、関わりがなくなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で声をかけ、言葉や表情の変化で真意をそれとなく確認するようにしている。	職員は、利用者と毎日のさりげない行動や会話から本人の意向を汲み取るようにしている。その内容を個人記録や送り帳などに記載し情報の共有を行い、モニタリングにおいて意向や目標の達成度を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の過去を知れば知るほど、その人の理解につながっていくと思ひ、ご家族の力も借りながら努めていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人一人の生活リズムを理解し、できないことより、できることに注目し、本人の全体像を把握していく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、思いやりや意見を聞き、職員全員で意見を交換し、モニタリング・カンファレンスを行っている。	利用者、家族、職員で十分な話し合いの上、介護計画を担当制にて作成している。カンファレンスを行い、職員の気付いたことの意味を出し合い、評価、見直しのうえ計画作成に繋げている。家族会等にて家族にも意向の把握に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに職員の気づきやご利用者の状態変化を記録に残し、介護計画や評価につなげる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高める努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員さんも来訪していただき、意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診をしていただき、24時間体制でドクターの協力があり、安心した医療が受けられている。	本人・家族等が希望するかかりつけ医の希望を聞き、意向に沿ってかかりつけ医を決めている。協力医により24時間対応できるよう安心の出来る医療体制となっており、入院対応などの連携も速やかに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護のシステムを8月よりスタートする予定で話を進めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に医師やソーシャルワーカーとも情報交換をするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をふまえ、対応しえる最大限のケアについて説明をしている。	終末期の方針について、入居家族に説明し、同意を得ている。今のところ、ターミナルケアの経験はないが、希望する利用者の終末期ケアは検討中である。運営推進会議にて、医師や家族を含めて意見交換している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の対応についてマニュアルを整備し、救急車対応についても勉強会や話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練も行っている。年に1回は消防署の協力を得て、訓練することになっている。	消防署立会いのもと、年2回の通報訓練、避難訓練を実施している。夜間の職員は2名、地域の支援体制は構築中である。スプリンクラーは設置工事する予定である。	災害時の支援体制は、地域の協力を得ることで人命の安全確保がより可能となる。地域住民を交えた避難訓練を実施するなどの取組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切に考え、自己決定しやすいように、さりげないケア、言葉かけを心がけている。	契約時に個人情報利用同意書を交わし扱っている。職員はプライバシー確保や個人情報保護を念頭におき、日常の介護に当たると共に、利用者に接する際は優しく、いたわる気持ちで接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、提案をし、一人一人のご利用者が決める場面をつくる働きかけをする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ個別性のある支援を心がけている。(買物・散歩等)その日の体調も考えながら実施する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりのスタイルがあり、その人らしさが保てるようお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理したものを小皿に分けていただいたりとお手伝いをして下さっている。ご利用者と同じテーブルで食事をする。	入居者と盛りつけやをしたり、庭から採れる大葉などの食材を使い、作る楽しみ、食べる楽しみを共有している。嚥下機能が低下している入居者には、きざみ食や軟食など調理方法を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保のため、ゼリーを作って食べていただいたりしている。ご家族の了解を得、その方の好きな物での対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず、口腔ケアの声かけをして洗面所で口腔ケアをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ。パット類もご利用者に合わせて検討している。	個々の利用者の排泄パターンにそって、早めの誘導で失敗の無いよう支援を行い、本人の自信に繋げている。トレーニングパンツを活用するなど、段階的な工夫等を行い、排泄が自立できるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、牛乳やヨーグルトで水分補給をし、散歩に誘うなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入られる前には必ず確認をして入ってもらうようにしている。職員も一緒に浴室に入ること、安心感を持っていただいている。	週2回の入浴が可能である。必要時には、その都度の入浴できるよう支援している。入浴拒否傾向の利用者には、職員を替えたり、タイミングを図りながら入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方・効能など説明をファイル保管し、全職員がわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事をお願いして、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内のおまつりや公民館での行事に参加させてもらったり、いつもと違う気持ちを味わっていただけるように努めている。	利用者と週に1回は近隣の店に食材の買い出しに行き、一緒に会計なども行っている。事業所の行事として花見、外泊は家族の協力のもと行っており、ドライブやお茶などホーム内だけで過ごさないように外に出ることを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者のなかにも、自分でお金を使われる方もあり、手元に持たれている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたものを持ってきていただき、家だという意識を高めてもらうようにしている。	食堂兼居間の共用空間にはテレビがあり、いつでも視聴できる。人が集まりやすいように、机の配置を工夫し、会話や情報を得るための場として活用している。大きな空気清浄機を備えつけ、衛生面に配慮すると同時に、季節を感じる壁掛けや花飾りなど五感を刺激するような配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、くつろいでもらっている。ときに、外のベンチに座ってお話をされたりもする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品々を持ち込まれている方もいる。	入居者自身の生活スタイルに合うように、部屋には馴染みの家具、家族の写真などが飾られ、家と変わらない生活ができるよう支援されている。部屋のレイアウトは、本人や家族と相談し決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況にあわせ、手すりをプラスしたり、自立支援につなげている。		